

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 国語科〉

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果にも表れているように、全体的に「文章を書く」ことに課題がある。 ・ここ数年の学力調査の結果から、「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。 ・学力調査の結果において、全国平均が65点程度に対して昨年度の校内平均が61.5点、今年度が39.4点ということから、5年生の内容を振り返りつつ、基礎・基本的知識を習得することが喫緊の課題といえる。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の改善推進プランでは、「文章を書く」課題に対して、①国語以外の教科でも書く機会を増やし、書くことへの抵抗を減らす。②理由や事例を挙げる際のキーワードを提示する。という2点を挙げた。今年度も、算数や社会、理科において自分の考えや感想などを書く機会を増やしている。同様にタブレット端末を使ったキーワードの提示を行っている。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文章を書く」ことの課題に対して、話型の提示や個別指導を行っている。今後はより細かく段落構成や、指示語の使い方などの指導を行っていく。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の課題に対して、児童が興味をもてるような授業改善、体験学習の充実を行っている。 ・基礎・基本的知識の習得の課題に対して、どの単元でも導入時に振り返りの時間を設けている。また、漢字の読み書きについては、前学年の内容も出題し、振り返りつつ学習を行っている。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①話型やキーワードの提示を行いつつ、段落構成や言葉の使い方を個人指導することで、書く力を高める。</p> <p>②漢字のミニテストや、熟語の習得を主としたオリジナルプリントを活用し、こまめに基礎・基本的知識の習得状況を把握する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①毎学期の行事の振り返り作文や、卒業文集作成の際に検証する。</p> <p>②毎月漢字のミニテストや熟語テストを行い、進捗状況を確認する。</p> </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <p>①話型やキーワードの提示を行いつつ、段落構成や言葉の使い方を個人指導することで、書く力を高める。</p> <p>②漢字のミニテストや、熟語の習得を主としたオリジナルプリントを活用し、こまめに基礎・基本的知識の習得状況を把握する。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎学期の行事の振り返り作文や、卒業文集作成の際に検証する。</p> <p>②毎月漢字のミニテストや熟語テストを行い、進捗状況を確認する。</p> |
| <p><方策></p> <p>①話型やキーワードの提示を行いつつ、段落構成や言葉の使い方を個人指導することで、書く力を高める。</p> <p>②漢字のミニテストや、熟語の習得を主としたオリジナルプリントを活用し、こまめに基礎・基本的知識の習得状況を把握する。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎学期の行事の振り返り作文や、卒業文集作成の際に検証する。</p> <p>②毎月漢字のミニテストや熟語テストを行い、進捗状況を確認する。</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①繰り返し作文に取り組むことで語彙が増え、卒業文集の内容に「書く力」の向上が見られた。</p> <p>②熟語を意識した取り組みを増やすことで、確かな定着につながった。</p> <p><課題></p> <p>どちらも取組中には高い効果が見られたが、時間の経過につれ薄れていく。各学年で継続して実施する必要がある。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文の課題は折に触れて指導し、正しい段落構成、相手に伝わりやすい表現方法を学ばせていく。 ・漢字の学習は新出漢字のみの確認にとどまらず、既習内容を踏まえた熟語の学習を充実することで、日頃の作文や感想文に生かしていく。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識を習得し、その知識を作文や感想文などの「書く力」へとつなげることができる児童。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 社会科〉

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果から、全体的に「思考・判断・表現」の領域に課題がある。 ・学力調査の結果において、昨年度は50点程度、今年度が60点程度と、基礎学力が上がっているが、どちらも「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフ、絵図などの資料を取り上げ、児童にも同じものを配布する。資料について話し合う機会を増やす。授業後の振り返りを書く時間を充実させる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「思考・判断・表現」に課題があり、特に資料の読み取りに苦手意識があるため、年表やグラフ、図を全員で読み取る機会を増やしている。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の課題に対して、人物像を描いたり、状況を再現したりと児童が学習内容に興味をもてるような授業展開に努めている。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①全員で資料を読み取る機会の充実を図り、思考力、判断力、表現力を高める。 ②体験や作業する学習の機会を充実させ、児童の興味・関心を高める。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①プリントを活用し、個々の読み取る力の向上状況を把握する。 ②ノートを毎時間確認する。 </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①全員で資料を読み取る機会の充実を図り、思考力、判断力、表現力を高める。 ②体験や作業する学習の機会を充実させ、児童の興味・関心を高める。 | <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①プリントを活用し、個々の読み取る力の向上状況を把握する。 ②ノートを毎時間確認する。 |
| <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①全員で資料を読み取る機会の充実を図り、思考力、判断力、表現力を高める。 ②体験や作業する学習の機会を充実させ、児童の興味・関心を高める。 | <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①プリントを活用し、個々の読み取る力の向上状況を把握する。 ②ノートを毎時間確認する。 | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ①一つの資料を多角的に読み取る機会をつくることで、さまざまな見方があることを学んだ。 ②人物相関図のまとめなど、作業する内容を増やしたことで関心・意欲が高まった。 <p><課題></p> <p>資料を多角的に読み取ったり、人物相関図のまとめをしたりする時間は有効だったが、充実させるには授業時数が足りなかった。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗記のみに重点を置かず、教科書や資料集の資料から、何が読み取れるかの時間を多く設ける。 ・時間数の不足はプリントを作成するなど、効率的な学習方法を模索する。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集の資料を多角的に読み取り、自分自身の考えを述べることができる児童。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 算数科〉

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果から、全体的に「思考・判断・表現」の領域に課題がある。特に文章題において顕著である。 ・学力調査の結果において、校内平均が昨年度、今年度ともに60点程度であり、全国平均と概ね同様であるといえるが、個人差が大きいことが課題である。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明をする際に使うキーワードを掲示する。一人一人の考えを発表する機会を増やし、分かりやすい説明を紹介する。 ・関連する既習事項について復習の時間を多く設ける。ベーシックタイムなどで前学年までのプリントを取り扱う。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題の内容を読み取れていないため、状況を絵で表したり、図や表を多く活用したりしている。 ・ドリルやスキルを活用し、既習内容の反復を行い、全体的に基礎学力の向上を図る。 ・自学プリントを作成し、宿題にすることで、個々のペースに合わせて学習を進める。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p>＜方策＞</p> <p>①絵や図、表などを用いて文章題の内容を説明することで、読み取る力を向上させる。</p> <p>②自学プリントを活用し、個人の習得状況を把握することで、個に応じた指導を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①文章題の解法を説明する機会を増やし、読み取れているかこまめに確認する。</p> <p>②宿題として自学プリントを出し、定期的に確認する。</p> </td> </tr> </table> | | <p>＜方策＞</p> <p>①絵や図、表などを用いて文章題の内容を説明することで、読み取る力を向上させる。</p> <p>②自学プリントを活用し、個人の習得状況を把握することで、個に応じた指導を充実させる。</p> | <p>＜検証方法＞</p> <p>①文章題の解法を説明する機会を増やし、読み取れているかこまめに確認する。</p> <p>②宿題として自学プリントを出し、定期的に確認する。</p> |
| <p>＜方策＞</p> <p>①絵や図、表などを用いて文章題の内容を説明することで、読み取る力を向上させる。</p> <p>②自学プリントを活用し、個人の習得状況を把握することで、個に応じた指導を充実させる。</p> | <p>＜検証方法＞</p> <p>①文章題の解法を説明する機会を増やし、読み取れているかこまめに確認する。</p> <p>②宿題として自学プリントを出し、定期的に確認する。</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>①文章題を絵や図、表にすることで視覚的に読み取れることが多くなった。</p> <p>②個人の課題に応じたプリントに取り組むことで、苦手な領域を減らすことができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>個々の苦手な領域、文章題について絵や図にすることで読み取る力は上がったが、児童自身で絵や図にするまでには至らなかった。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則演算の練習を、毎時間5分程度を用いて行っていく。 ・文章題に関して、正確に読み取れる方策を個々に応じて探求していく。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算を素早く正確に行い、文章題で問われている内容を正確に読み取れる児童。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 理科〉

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験に対する意欲はあるが、その過程を意識した取り組み方に課題がある。 ・学力調査の結果において、昨年度が60点、今年度が70点ということから、基礎学力は向上している。しかし、その反面「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうしたらこうなるという原因から結果までの関係を、黒板で視覚化して整理しておき、常に意識しながら実験を組み立てられるようにする。また、実験技能の基本をカードやワークシート等を活用して丁寧に指導する。 ・予想や考察などを文章で記述する機会を増やし、慣れさせる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度と同様に、問題提起から予想、結果、その原因について整理した内容を黒板に視覚化することにより、常にその過程を意識できるようにする。 ・年々「主体的に学習に取り組む態度」に課題が見られるようになってきたため、実験内容を充実させ、改めて児童の興味・関心を高める。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①どの実験でも過程を視覚化することで、意識すべきことの定着を図る。</p> <p>②実験内容を充実させることで、児童の興味・関心を高める。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①毎授業のノートを確認し、実験中の動きや声掛けにも注目する。</p> <p>②実験の考察や、振り返り方を注視する。</p> </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <p>①どの実験でも過程を視覚化することで、意識すべきことの定着を図る。</p> <p>②実験内容を充実させることで、児童の興味・関心を高める。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎授業のノートを確認し、実験中の動きや声掛けにも注目する。</p> <p>②実験の考察や、振り返り方を注視する。</p> |
| <p><方策></p> <p>①どの実験でも過程を視覚化することで、意識すべきことの定着を図る。</p> <p>②実験内容を充実させることで、児童の興味・関心を高める。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎授業のノートを確認し、実験中の動きや声掛けにも注目する。</p> <p>②実験の考察や、振り返り方を注視する。</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①どの実験も過程を視覚化したことで、正確に、そして安全に行うことができた。</p> <p>②実験の機会を多く設けることで、年間を通して高い興味・関心を保つことができた。</p> <p><課題></p> <p>野菜や植物に関する内容など、環境的な理由で正確に実験結果を得られなかったり、具体的にイメージできなかつたりした。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の植物や生き物など、環境的に指導が難しい内容を教えるために、ICTを活用した授業を充実させていく。 ・人数が少ない分、実験を充実させ体験的な学習の機会を増やしていく。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や化学に高い興味・関心をもち、安全に実験に取り組もうとする児童。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 音楽科〉

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和4年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童はA50%、B50%となっており音楽への関心が高い。「学習したことをわかっている」という項目については、A75%、B25%であった。過去2年間を見るとほぼ同様の結果になっている。授業者として興味深かったのは音楽の評価が高い児童ほど「授業が好き」の項目がBになっており驚いた。もともと器用に何でもできてしまう児童が多く、「わかった」「できた」と達成感を味わっても、その達成感に個人差があるのが課題である。</p> | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>①音楽的な語彙を増やす →リズムゲームや既習の楽譜を用いて、基礎的な用語を習得する。リズムの長さを視覚的に確認できるカードを用いる。</p> <p>②曲想を活かした演奏表現をする →歌詞や楽器に注意して鑑賞させ、イメージをもって演奏できるようにする。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>①音楽的な語彙を増やすことは中学校の音楽にも通じるので、授業の導入時にフラッシュカードを使い、語彙を増やす。</p> <p>②曲想を活かすということは「音楽を形づくっている要素」を活かすととらえ、ICTを使い視覚的に理解できるようにしたり、器楽活動では創作活動につながる和音の響きをICTと実際の楽器を使い、五感を刺激したりしながら「わかる」から「できる」を体感させる。「できる」について、達成感に個人差があるので、少人数という強みを生かし、「〇〇ができたなら次に〇〇をやってみよう」と課題をクリアできるようなステップを設ける。</p> | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p> </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p> | <p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p> |
| <p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p> | <p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>6年間の集大成として、創作活動を取り入れた発表を行った。個人活動の中で、効果音などを楽器や電子音から探し、場面に対応した音を自分たちでつくることができた。</p> <p><課題></p> <p>変声期を迎えたこと、コロナ対応の中で、歌唱できる場面が少なく、「歌う」ということに対して、ハードルが高くなってしまった。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・引き続き、タブレット端末を使い、創作活動に活かす指導を行う。また、個人別に課題を設定し、課題をクリアできるような授業を展開する。</p> | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>・力を入れた創作分野から鑑賞・器楽・歌唱のそれぞれの分野への興味をもち、表現活動の面白さを体感できる児童。</p> | | | |

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 図画工作科〉

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「図画工作科の授業が好きか」という項目に関して、4名中4名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、4名中4名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえる。学習内容の確実な定着については、授業者と児童との間に乖離があるため、改善が図られるとよいと考えられる。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【課題】①発想や構想の場面において広げたアイデアを表現活動へ収斂させる。 【改善策】①発想及び表現の工夫に着目して自分や友だちの作品を鑑賞できるようにする。②デジタルカメラで制作の様子を児童自らが撮影することで、振り返りを意識して行い、見通しをもって表現に取り組ませる。 【評価】①児童同士でアイデア共有させて、よりよい表現方法を考え、材料の組み合わせや用具の工夫を主体的に行う姿が見られた。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現活動においては、前年度までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫できる指導を行う。 表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。 アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成</p> </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善</p> | <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成</p> |
| <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善</p> | <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 図画工作科の学習方法や目指すべき資質・能力を発達の段階に応じて示すことが日々の授業でできているため、効果的に学習を進めることができ、創造的な作品づくりや鑑賞活動につながり、中学校へスムーズな学習の移行ができるだろう。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の指導経験がない中学校教員が児童の実態を確実に把握することは専科教員に多大な負担や教材研究が必要であるため、校務や報告書等の記述内容の精選を行い、効果的な教材研究をする時間を捻出することが必要になるだろう。 | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のことを一番近くで指導し、理解している専科教員が、児童がより個性を生かした創造活動に取り組めるように、児童の実態に応じた弾力的な学習を引き続き展開していくとよいのではないだろうか。よって、発達の特性に合った題材を常に検討しながら、他教科との教員とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性をさらに尊重する態度の形成。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 家庭科〉

| | |
|--|---|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「家庭科の授業が好きか」という項目に関して、4名中4名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、4名中3名が「はい」と答え、1名が「どちらかというとはい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高く意欲的であることが分かる。しかしながら、実習や実験などの実践的で体験的な題材以外の興味関心が低く、基礎的な知識の定着に課題が見られる。</p> | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習やICT機器を活用し、実際にイメージをもって、内容の理解を深められるような授業を展開する。また、自身の製作過程を記録として残し、自身の生活に結び付けて考えを深めさせる。 ・児童が自ら考えたり、実践して取り組めたりするような教材や実物等の教具を用いた授業を展開し、意欲を高める。 | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②児童の理解度に合わせて、個に応じた支援を行う</p> | <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②ワークシート、課題、単元テスト</p> |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や実践的な活動の機会を増やしたことにより、児童の実践意欲が高まった。 ・基礎的な技能を生かし、調理や製作を自ら進んで取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を生かし、実生活と関連させながら自身の考えを表現することが難しい。 | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を定着させるために、実践的で体験的な授業の時間を確保し、児童の興味関心を高める。また様々な題材において工夫を凝らして、実習等の機会を増やす。 |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、自身の生活をよりよくしようとする意識を高める児童。 | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 体育科〉

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「授業が好きか」「学習したことを理解しているか」「授業は分かりやすいか」「質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、4名中4名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、意欲的に授業に取り組み、体育科に関する見方・考え方を伸長することができているため、継続して授業内容をさらに発展させていく必要がある。 新体力テストの総合評価では、Aが4名であった。基礎的な体力が身に付いているため、個々に応じた指導により、さらに体力を向上できるようにする必要がある。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基本的な運動技能の習得。②仲間と協力し、課題を解決する。</p> <p>【改善策】①スモールステップで課題を提示し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、練習させる。②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に理解しやすくさせるとともに、ペアやグループで課題について話し合い、発表する機会を設ける。</p> <p>【評価】①積極的に練習し、基本的な運動技能を伸ばすことができた。②仲間と協力し、課題を改善することができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。 学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。 基礎的な技能が身に付いている児童に対しては、発展した技や仲間の学習を支援させるなど、より難しい課題を提示することで、意欲的に取り組むことができるようにしている。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析 </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 | <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析 |
| <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 | <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析 | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 運動をすることの楽しさや喜びを味わいながら、各運動領域の種目に取り組むことができた。 新体力テストの結果により、自己の体力を把握するとともに、自分なりの目標をもって体力の向上に努めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識を基に、運動課題について思考、判断し、表現する力を伸ばしていく必要がある。 | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 「できた」動きについて、それがなぜできたのかを言語化していく活動を取り入れ、表現する練習をさせる必要がある。 初めての課題については、恐怖心や不安感を減らすような、スモールステップの課題提示が必要である。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童(令和5年度は生徒)自身が心と体を一体として捉え、積極的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばしている。 | | | |

〈授業改善推進プラン 令和4年度第6学年 外国語科〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習表現を思い出せないことが多く、知識の定着に課題がある。 ・学年が上がるにつれ、外国語での表現に対する意欲が低下していることが課題である。 | | | |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度と同様に、既習表現や単語を黒板に書いたり貼ったりすることで、児童が活用しやすいようにする。 ・アクティビティやゲームを充実させ、児童が高い意欲をもって授業に取り組むことができるようにする。 | | | |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①既習表現の確認をしやすい環境づくりに努め、児童の表現力を高める。</p> <p>②アクティビティやゲームの充実を図り、児童の意欲を高める。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①毎時間指名し、表現力の確認を行う。</p> <p>②児童のアクションやゲームに対する取り組み方に注視する。</p> </td> </tr> </table> | | <p><方策></p> <p>①既習表現の確認をしやすい環境づくりに努め、児童の表現力を高める。</p> <p>②アクティビティやゲームの充実を図り、児童の意欲を高める。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎時間指名し、表現力の確認を行う。</p> <p>②児童のアクションやゲームに対する取り組み方に注視する。</p> |
| <p><方策></p> <p>①既習表現の確認をしやすい環境づくりに努め、児童の表現力を高める。</p> <p>②アクティビティやゲームの充実を図り、児童の意欲を高める。</p> | <p><検証方法></p> <p>①毎時間指名し、表現力の確認を行う。</p> <p>②児童のアクションやゲームに対する取り組み方に注視する。</p> | | |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①毎時間既習表現の確認を行う時間を設けることで、自信をもって表現できるようになった。</p> <p>②アクティビティやゲームの充実をすることで、児童が毎時間高い意欲で取り組むことができた。</p> <p><課題></p> <p>アクティビティやゲームを充実させることで、意欲や表現力の高まりは感じたが、文章の構成力には課題が残った。</p> | <p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲的に取り組めるアクティビティやゲームを充実させ、楽しみながら参加できるような授業雰囲気づくりに努める。 ・英単語のみではなく、文章として表現できる機会の充実を図る。 | | |
| <p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に他者と関わり合いながら、自分の考えを英語で表現できる児童。 | | | |